

(参考)環境施策の展開

本計画がめざすまちの姿の実現のため、4つの具体的なまちづくりをそれぞれ推進する「分野別施策」と、各分野にまたがる「分野横断型施策」による施策体系で取組みを推進します。

〈施策の体系〉

めざすまちの姿 豊かな自然と歴史に育まれ、未来へのちつなぐまち

快適で良好な生活環境のまち

大気汚染や気候変動に伴うリスクが軽減され、歴史やすぐれた景観を活かした快適なまち

市民がふれあう自然共生のまち

豊かな自然と共生し、その恵みに支えられ、命をつなぐまち

資源を活かす循環のまち

廃棄物等の発生が抑制され、資源が循環利用されるまち

未来につなぐ低炭素のまち

エネルギーの地産地消が進み、温室効果ガスの排出が抑えられたまち

分野別施策、分野

横断型施策の展開

分野別施策の展開

快適で良好な生活環境のまちづくり

- 黄砂・PM2.5などの大気汚染物質への対応
- 良好な生活環境の保全
- 気候変動への適応
- 歴史・景観を活かした美しいまちの実現

市民がふれあう自然共生のまちづくり

- 生き物や自然環境の保全・再生と自然のネットワークの形成
- 自然からの恵みの持続的利用の促進
- 生物多様性の認識の社会への浸透

資源を活かす循環のまちづくり

- 廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用の推進
- 廃棄物の適正処理の推進
- 水資源の有効利用の促進

未来につなぐ低炭素のまちづくり

- 省エネルギーの促進
- 再生可能エネルギーやエネルギーマネジメントシステムなどの導入・活用
- 低炭素型の都市構造及び交通体系の構築

分野横断型施策の展開

環境の保全・創造に向けた人づくり・地域づくり

- 環境行動を担う人材の育成 / ●地域環境力の向上

環境の保全・創造に向けたしくみづくり

- 環境配慮のための手続きや規制等の整備・運用 / ●市民・事業者の自主的な環境活動に対する支援 / ●環境情報の継続的な収集・発信と共有

ふくおか から九州・アジアへ

- 近隣地域や九州・国内各地域との連携 / ●国際環境協力の推進

(参考) 成果指標一覧

快適で良好な生活環境のまちづくり

成果指標	現状値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	指標設定の考え方
①黄砂・PM2.5などの大気汚染物質への対応			
PM2.5の予測精度	見逃し率48.1% (2013年度)	30%以下 (2024年度)	PM2.5予測精度向上を図る指標として設定
②良好な生活環境の保全			
環境基準(大気質)の達成率	NO ₂ 100% (2012年度)	100% (2024年度)	環境基本法第16条第1項の環境基準
環境基準(有害大気汚染物質)の達成率	ベンゼン100% (2012年度)	100% (2024年度)	環境基本法第16条第1項の環境基準
環境基準(自動車騒音)の達成率	95.3% (2012年度)	100% (2024年度)	環境基本法第16条第1項の環境基準
環境基準(ダイオキシン類)の達成率	100% (2012年度)	100% (2024年度)	ダイオキシン類対策特別措置法第7条の環境基準
③気候変動への適応			
都心部(※)における緑被面積 ※都心部:御笠川~百年橋通り~高宮・大正通りで囲まれたおよそ3km四方、面積920haの範囲	96ha (2007年度)	103ha (2024年度)	ヒートアイランド現象の緩和につながる都心部の緑を図る指標として設定。 (福岡市新・緑の基本計画に掲げる成果指標)
④歴史・景観を活かした美しいまちの実現			
市民のマナーに対する満足度	31.5% (2012年度)	60% (2022年度)	市民のモラル・マナーの向上の度合いを図る指標として設定 (福岡市基本計画に掲げる成果指標)
自転車放置率	10.5% (2012年度)	10%以下 (2024年度)	市民のモラル・マナーの向上の度合いを図る指標として設定 (福岡市道路整備アクションプラン2016に掲げる成果指標をもとに設定)

市民がふれあう自然共生のまちづくり

成果指標	現状値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	指標設定の考え方
①生き物や自然環境の保全・再生と自然のネットワークの形成			
全市域における緑被面積	18,864ha (2007年度)	現状維持 (2020年度)	多様な生きものの生息環境の場である緑が保全されているかを図る指標として設定。 (福岡市新・緑の基本計画に掲げる成果指標)
農地面積 (農業振興地域の農用地区区域内)	1,559ha (2014年度)	現状維持 (2023年度)	農林業の基盤であり、多面的機能を持つ農地や森林が保全されているかを図る指標として設定。
森林面積	11,054ha (2010年度)	現状維持 (2024年度)	
環境基準(博多湾)の達成率	COD 62.5% (2012年度)	100% (2024年度)	環境基本法第16条第1項の環境基準
環境基準(河川水質)の達成率	BOD 100% (2012年度)	100% (2024年度)	
カブトガニの卵塊・幼生数	卵塊:12 幼生:63個体 (2012年度)	現状維持 (2024年度)	カブトガニは成長の過程で干潟や沖合などを移動するが、一定の汚染されていない環境のもとでしか生息できないため、多様な生物の生育・生息の場である博多湾の環境を図る指標として設定。

②自然からの恵みの持続的利用の促進			
身近な緑への満足度	31.6% (2012年度)	55% (2022年度※)	市民が身近な地域においてどれだけ「緑が豊かである」と感じているかを図る指標として設定。 (福岡市基本計画に掲げる成果指標)
地域の公園の親しみ度	57.7% (2012年度)	75% (2020年度)	地域の公園が、生物多様性を活かしたふれあいの場として市民の満足を得ているかを図る指標として設定。 (福岡市新・緑の基本計画に掲げる成果指標)
福岡市の農林水産業を守り育てていくべきだと思う市民の割合	75.2% (2012年度)	85% (2022年度)	生物多様性の恵みを活かした農水産物の積極的な活用に向けた取組みの成果を図る指標として設定。 (福岡市基本計画に掲げる成果指標)
学校給食への市内産農産物利用割合(野菜)	11.30% (2012年度)	15.0% (2016年度)	生物多様性の恵みを活かした農水産物の積極的な活用に向けた取組みの成果を図る指標として設定。 (福岡市農林業総合計画に掲げる成果指標)
背振少年自然の家延利用者数	28,737人 (2012年度)	30,000人 (2024年度)	生物多様性の恵みを活かしたふれあいの機会として各施設がどの程度利用されているかを図る指標として設定。
農林業ふれあい施設年間利用者数 ・油山市民の森 ・油山牧場 ・花畑園芸公園 ・市民リフレッシュ農園(今津・立花寺)	872,920人/年 (2013年度)	898,000人/年 (2016年度)	生物多様性の恵みを活かしたふれあいの機会として各施設がどの程度利用されているかを図る指標として設定。 (福岡市農林業総合計画に掲げる成果指標)
海づり公園利用者数	69,719人/年 (2012年度)	72,000人/年 (2024年度)	生物多様性の恵みを活かしたふれあいの機会として各施設がどの程度利用されているかを図る指標として設定。
③生物多様性の認識の社会への浸透			
生物多様性を理解し、その保全を意識して行動している市民の割合	14.7% (2012年度)	35.0% (2024年度)	生物多様性の社会への浸透の度合いを測る指標として設定。 (福岡市基本計画に掲げる成果指標をもとに設定)

資源を活かす循環のまちづくり

成果指標	現状値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	指標設定の考え方
①廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用の推進			
ごみ処理量	56.3万t (2012年度)	47万t (2024年度)	ごみ減量の効果を図る指標としてごみ処理量を設定するとともに、排出されたごみを資源として有効活用する指標として、ごみのリサイクル率を設定。 (福岡市基本計画に掲げる成果指標をもとに設定)
ごみのリサイクル率	30.6% (2012年度)	37% (2024年度)	
②廃棄物の適正処理の推進			
不法投棄処理量	87t (2012年度)	39t (2024年度)	適正処理の確保のため、不法投棄防止の効果を図る指標として設定。
③水資源の有効利用の促進			
市民1人あたり水使用量 (市民一人一日あたりの 家事用水使用量)	201リットル (2012年度)	現状維持 (2024年度)	市民の節水意識の維持向上を図る指標として設定。 (福岡市基本計画に掲げる成果指標をもとに設定)

未来につなぐ低炭素のまちづくり

成果指標	現状値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	指標設定の考え方
①省エネルギーの促進			
家庭部門における1世帯あたりのエネルギー消費量	30.1ギガジュール (2006~2010年度平均)	22.1ギガジュール (2024年度)	市民の省エネ行動の促進による節電効果等を図るための指標として設定。 (福岡市基本計画に掲げる成果指標をもとに設定)
業務部門における延床面積1㎡あたりのエネルギー消費量	1.08ギガジュール (2006~2010年度平均)	0.88ギガジュール (2024年度)	事業者の省エネ行動の促進による節電効果等を図るための指標として設定。 (福岡市基本計画に掲げる成果指標をもとに設定)
②再生可能エネルギーやエネルギーマネジメントシステムなどの導入・活用			
再生可能エネルギーの設備導入量	11万1千kW (2012年度)	30万kW (2024年度)	再生可能エネルギー等の導入促進の成果を図るための指標として設定
③低炭素型の都市構造及び交通体系の構築			
1日あたりの鉄道・バス乗車人員	112万1千人 (2012年度)	120万人 (2022年度)	公共交通機関の利用促進の成果を図る指標として設定。 (福岡市基本計画に掲げる成果指標)
公共交通の便利さへの評価	77.4% (2012年度)	現状維持 (80%程度を維持) (2022年度)	公共交通機関の利便性向上の成果を図る指標として設定。 (福岡市基本計画に掲げる成果指標)
都心部への自動車の流入台数	88,600台/12h (2013年度)	87,000台/12h (2022年度)	都心部における公共交通機関利用促進の成果を図る指標として設定。 (福岡市都市交通基本計画に掲げる成果指標)

環境の保全・創造に向けた人づくり・地域づくり

成果指標	現状値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	指標設定の考え方
①環境行動を担う人材の育成			
環境教育・学習人材リスト登録者数	44人 (2013年度)	80人 (2024年度)	環境行動のリーダーとなる人材育成の成果を図る指標として設定。

ふくおか から九州・アジアへ

成果指標	現状値 (把握年度)	目標値 (目標年度)	指標設定の考え方
②国際環境協力の推進			
視察・研修受入人数	602人 (2011年度)	1,700人 (2022年度)	アジア・太平洋地域などの都市への国際環境協力の取組みの度合いを図る指標として設定。 (福岡市基本計画に掲げる成果指標)

※目標年度が2024年度より前になっている指標について

本計画の目標年度が2024(平成36)年度であるため、関連計画等の点検・見直しと合わせ、指標項目・目標値の再設定を検討する。



福岡市には、日本の原風景を残す名所がたくさんあります。これらの名所は8世紀頃の万葉集にも多く詠まれており、能古島(西区)や荒戸(中央区)、志賀島(東区)など様々な場所に、当時の歌を刻んだ歌碑が残されています。

古代、日本から朝鮮半島の新羅(しらぎ)に派遣された外交使節が、荒津(中央区)から船出し、北崎(西区)の唐泊に碇泊した際にも、次のような歌が詠まれています。

韓亭 能許の浦波 立たぬ日は あれども家に 恋ひぬ日はなし
(韓亭の近くの能古島に波の立たない日はあっても、家を恋しく思わない日はない。)

韓亭(現在の西区唐泊)から能古の浦を眺め、深い郷愁に浸る一行の様子がうかがえます。

万葉集の時代から千年以上たった現在でも、わたしたちは、博多湾の西に沈む美しい夕日を見ることができます。

万葉歌人や現在のわたしたちが眺めてきた夕日を将来の世代に引き継いでいくためにも、わたしたちは自然との調和の中でたがいに協力し、うるおいのある環境の創造に向けて行動していく必要があります。

本計画の「第2部 環境施策の展開」に掲載している「関係課」は、事務分掌の見直し等により変更となる場合があります。

最新の情報は、環境局ホームページ(下記URL)にてご確認ください。

●福岡市環境基本計画(第三次)データ版 ~福岡市 HP 内

http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/k-seisaku/hp/plan/f-kankyoplan_3.html